【樹木の部屋】

ハナズオウ（マメ科ハナズオウ属　Cercis chinensis）

和名：ハナズオウ(花蘇芳)　　別名：スオウバナ(蘇芳花)

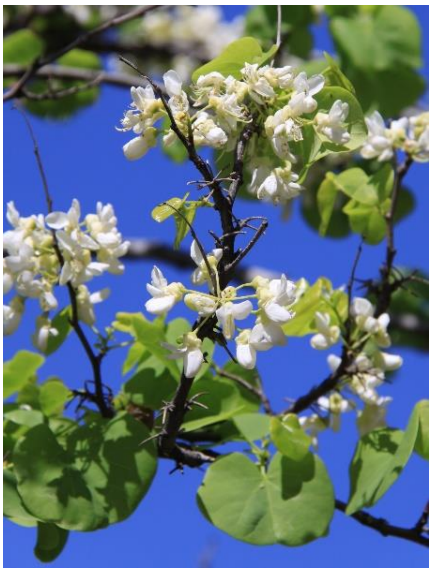
英名：Chinese redbud

マメ目　落葉低木　原産地：中国

花言葉　疑惑、裏切り、不信、豊かな生涯　　花の色：　赤紫、桃、白

← 写真-１　ハナズオウ
撮影日：2013 年 04 月 14 日
撮影場所：大和郡山城跡(大和郡山市)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　ハナズオウ
撮影日：2013 年 04 月 14 日
撮影場所：大和郡山城跡
(大和郡山市)にて
撮影者：M　さん



← 写真-３　シロバナハナズオウ
撮影日：2018 年 04 月 21 日
撮影場所：メテオラ(ギリシャ)にて
撮影者：M　さん

桃色種は、毎年春、大和郡山城跡で開催されている、お城祭りで訪れた際見かけました。開化が始まったばかりのようで、ほとんどが蕾でした。開花期は４月。

ハナズオウの名前は、花の色が、蘇芳(スオウ)で染めた色に似ているためだそうです。ちなみに、蘇芳とは、同じくマメ科のジャケツイバラ亜科の樹で、材から染料が取れ、日本でも古くから輸入されていたそうです。

シロバナ種（Cercis chinensis cv.Alba)は、ギリシャ北部のメテオラを訪れた際、見かけました。桃色や赤紫色の華やかなハナズオウとは対照的に、白く清楚な花という印象でした。

管理ですが・・。

自然に近い形の樹型のほうが見栄えが良いので、さほどいじる必要はありませんが、樹型を好みに整えたい場合はできるだけ若いうちに剪定を行います。木が若いうちは生育も旺盛で枝もよく伸びるので、混み合った部分や長い枝を切って樹型を整えます。株元から伸びている「ひこばえ」という新しい幹は、地際から切り戻し、幹は丈夫なもの 2～3 本にします。

ハナズオウは、前年以上前に伸びた枝へ翌年の花の芽が 8 月に付きます。このため、8 月以降に枝を切ってしまうと花が咲かなくなってしいます。花が咲き終わった 5～7 月に剪定をして枝先を整える程度にとどめます。また、落葉している晩秋～冬時期であれば、花芽が確認できるようになるので、枝をばっさりと切り落としてしまうような剪定も安全に行えます。

一方、花は短い枝につくので長い枝は数芽残して切るか、根元から切り戻してしまいます。木が年をとってくると生育も緩慢になり花のつく短い枝がたくさん出るようになり、長い枝にも花をつけるようになるので切り戻しを行う必要はありません。

＜ちょっと一言＞

ハナズオウ属はハナズオウも含めて 7 種が東アジアから北アメリカにかけて分布します。

・セイヨウハナズオウ Cercis. siliquastrum〕

南ヨーロッパから西南アジアを原産とするハナズオウ属の高木。花言葉の由来にもなっているユダのエピソードから、別名「ユダの木」とも呼ばれます。地中海沿岸に分布し、濃い桃色の花を咲かせる品種です。

・アメリカハナズオウ Cercis. canadensis〕

北アメリカ中部～東部に分布する同属の樹木です。ハナズオウに比べて花数は少ないですが、より寒さに強い性質を持っています。春に 1cm 前後の淡い紅色の小花を咲かせる品種です。